



北の国へ 神戸から移住して農業で暮らすことを始めた夫婦の住宅。敷地は羊蹄山を含む雄大な風景をもつ緩やかな斜面にある。ほどよく暑い夏と厳しい冬の寒さの中で、心地よく機能的な農家住宅を追求した。

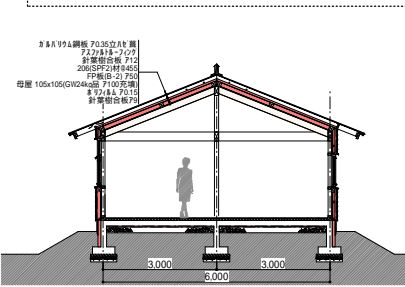
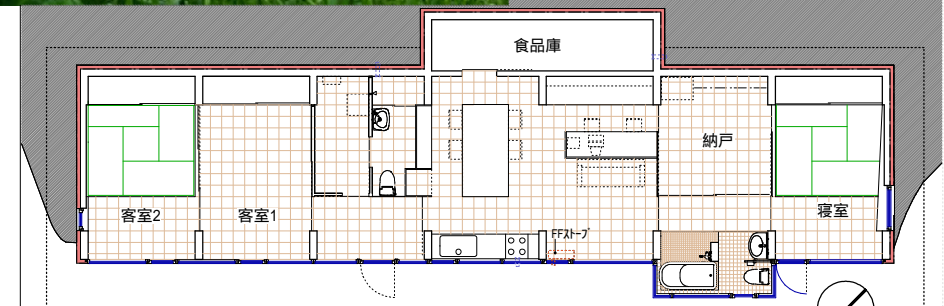
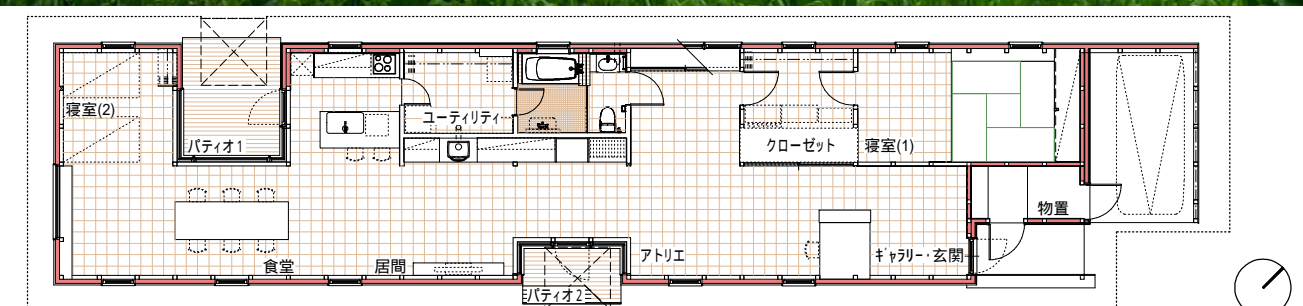
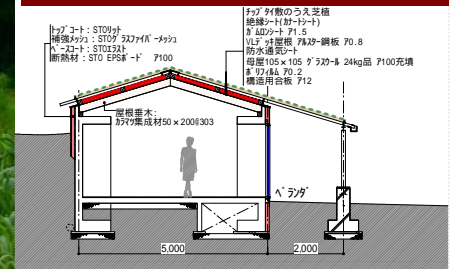
農家住宅 農家住宅は、汗にまみれ疲れた体をリフレッシュさせることが重要。冬の寒さ対策は当然。さらに暑い季節にひんやりとした心地よさを生み出す工夫がこの住宅のデザインを決めている。夏の暑さ対策がこの住宅のテーマである。

温故知新 小さなエネルギーで温度環境を制御するには新しい技術に頼りきるだけではなく、古来の知恵に学ぶのが良い。屋根は草屋根にして強い日射熱を遮る。北側は土に埋め厳しい北風をやり過ごす。南側は全面ガラス窓。大きく屋根を突き出して太陽の直射熱を制御しながら雄大な風景を望めるようにして、90センチ突き出した総ガラス張りの浴室は露天風呂気分を楽しむ。

新しい技術 トリプルガラス木製窓、ドイツの外断熱工法などの新しい材料と伝統的な技術・思想を組み合わせることで、この家は環境建築の一つになりえていると思う。

- 2006 JIA環境建築賞 住宅部門「最優秀賞」
- 2005 SB05Tokyo記念サティアル建築・住宅賞 住宅部門「住宅金融公庫総裁賞」
- 2004 JIA北海道支部住宅部会が選ぶ住宅賞「ハルニレ賞(大賞)」

敷地面積 32,140.00㎡
 建築面積 142.70㎡
 延床面積 117.99㎡



当別田園コート
 北海道 当別町 (2006年)

敷地面積 2,235.54㎡
 建築面積 175.50㎡
 延床面積 162.00㎡

田園住宅プロジェクト 地元建設会社が里山暮らしを薦めるロマンを描いて10年。ゆとりある敷地を供給し、少しずつ賛同者が暮らし始めこの住宅が10件目になる。景観のルールはシルバー色の切妻屋根にすることのみ。

オープンプラン 画家の住宅であるが、囲い込んだアトリエの造りは不要との事。田園のスケールに呼応して、玄関を入ると向こう端のガラス窓を突き抜けて見通せるオープンなつくりにして好みの場所で描いて頂く。

窓 ここは雪が多い、屋根からの落雪が窓を塞ぐから高基礎作りが流行った。が、高齢者には出入りがつらい階段付き玄関になる。で、窓の開け方を再考した。基本的な明るさは連続高窓で確保し外を窺う小窓はぼつぼつと。床までのガラス窓は軒から後退させることで外部テラスを抱え込む構成になり里山暮らしの魅力をも獲得した。

工法 メーターモジュールで構造金物を用いたシステムの構法。3m角を基本に間口30m奥行6mである。外張り断熱工法ですっぽりとくるんでいから、これらの構造骨組みの全てが頭しになっている。北海道産のエゾ・トドマツの集成材だから明るい色調の空間になった。全面タイル貼りの蓄熱電気床暖房を採用。

